

能登地震・豪雨

"三重被災"の深刻さとピースウィンズ・ジャパンの活動

講師： はしもと しょうこ
橋本 笙子 さん特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
国内事業部次長

日付	2月1日(土) 19:00~20:30
会場	オンライン
参加人数	34人 参加費 800円
担当委員会	環境委員会

内容報告

【セミナー内容】 2022年から地震が続き、2023年5月にも被害を受けていた能登半島では、2024年1月の地震により多くの命と生活が危険にさらされ、9月には復旧に立ち上がろうとする地域の人たちの心を折るように豪雨被害が起こった。1996年に日本で設立されて以来、「あきらめない集団」として、世界中の紛争地や大規模災害の被災地で支援活動を展開してきた認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパンの橋本笙子さんから、1年経った能登半島地震と9月の奥能登豪雨災害の後の地域の現状と同団体の活動についてのお話を伺った。橋本さんは、2023年5月の地震後から現在まで珠洲市での支援活動に従事しておられる。

ピースウィンズが運営する「空飛び捜索医療団“ARROWS”」という医療を軸とした災害緊急支援プロジェクトは、平時には地域医療に貢献し、緊急時には災害現場に急行し支援に従事する体制をとっており、国内の災害時には40分で本部を立ち上げる。2024年1月1日の能登半島地震では発災から出動までに約4時間を要したが、翌2日にはヘリコプターが配備され医療支援を開始、船も5日には到着して物資支援を開始した。給水支援、避難所の環境整備等のほか、ペット支援、訪問・見守りなどの健康支援、仮設住宅への家電支援等のきめ細やかな支援も行われてきた。ピースウィンズの重要な役割は、行政、保健医療福祉、捜索救助、社会福祉協議会、NPO・市民団体等のハブとして連絡調整を行うところにある。珠洲市では社会福祉協議会と連携して「ささえ愛センター」の運営に加わり、災害関連死を防ぎコミュニティを再構築することに寄与している。情報共有を推進し、地元の人たちの力で維持できるサポート体制を築くことが基本とされる。

「一秒でも早く、一人でも多く、一人も取り残さない」ことを目指すピースウィンズでは、ヘリコプター、船舶を所有し、医療・捜索救助の専門家がいち早く災害の現場に駆け付ける機動力を持ちながら、つねに官民の協力、多機関との連携を重視して、抜け漏れのないように地域のニーズに応えようとしている。同団体のスピード感ある誠実な対応を知ることにより、災害に備える意識を持ち、被災地域の人たちへの支援活動を応援していこうというモチベーションが高められた。